

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しましょう

学習指導要領の外国語科の目標に、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」が掲げられています。その目標を達成するためには、教師自ら積極的に英語を使う姿勢が大切です。

1 教師が積極的に英語を使い、英語を使う楽しさを伝えましょう

次の表は、県内の英語教員の授業における英語の使用状況（平成 17 年度）について表したものです。これを見ると、授業の「大半」あるいは「半分以上」を英語で行っている英語教員の割合は、第 1 学年、第 2 学年では 5 割を超え、第 3 学年でも 5 割に近くなっており、この割合は年々増加しています。このことから、先生方の意識の変容と授業スタイルの変化を推察することができます。

| 平成 17 年度 県内公立中 学校 169 校 | 大半は英語を用いて 行っている | 半分以上は英語を用い て行っている | 英語を用いることは あるが半分または それ以下である | 英語の使用は ほとんど あるいは 全くない |
|-------------------------------|--------------------|----------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 第 1 学年 | 13 校(7.7%) | 83 校(49.1%) | 73 校(43.2%) | 0 校(0%) |
| 第 2 学年 | 7 校(4.1%) | 86 校(50.9%) | 76 校(45.0%) | 0 校(0%) |
| 第 3 学年 | 12 校(7.1%) | 69 校(40.8%) | 88 校(52.1%) | 0 校(0%) |

ここで、教師が授業を英語で進めることの利点について、Q & A としてまとめてみました。「英語で授業を進めるのはどうも・・・」と考えている先生方は、これらを参考に、明日からの授業を行っていただきたいと思います。

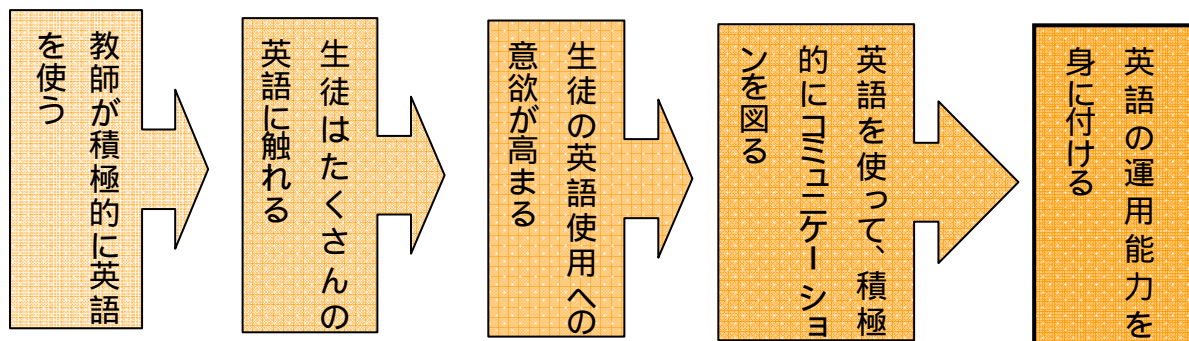
Q 1 なぜ、英語で授業を進めるのですか？

A 1 生徒の英語使用への意欲を高めたり、英語の運用能力を高めるのに役立てたりするためです。

今、中学校の英語教育では、「使える英語」を生徒に身に付けさせることが求められています。そのためには、まず教師が積極的に英語を使うことによって、生徒のよいモデルとなることが大切です。教師が英語を使わなければ、生徒は英語使用の意義やよさを感じることはできず、「使える英語」を身に付けさせることは難しいと考えます。教師が英語を使うことによさとして、次のようなことが考えられます。

生徒がたくさん英語に触れることができる。
 授業にテンポが生まれ、英語授業のよい雰囲気を作ることができる。
 教師がモデルとなることで、生徒の英語使用への意欲の高まりが期待できる。
 教師が生徒と英語でコミュニケーションを図ることで、生徒は英語を使うことの楽しさを実感することができる。
 教師が生徒と英語でコミュニケーションを図ることで、単なる知識・理解ではない英語の運用能力を身に付けさせることに役立つ。

以上のことを図に表すと、次のようになります。



Q 2 授業のどのような場面で、英語を使えばよいのですか？

A 2 授業のある特定の場面ということではなく、英語を使って授業を進めながら補助的に日本語を使う、と考えましょう。

英語の授業では、「あいさつ」「ウォームアップ」「本文の導入」「本文の音読」「言語材料の導入」「言語活動」など、様々な活動場面があります。ある場面では英語を使い、また別のある場面では日本語を使うということではなく、英語で授業を進めつつ、必要に応じて日本語で補足すると考えましょう。



英語で授業を行い、補助的に、そして効果的に日本語を使いましょう！

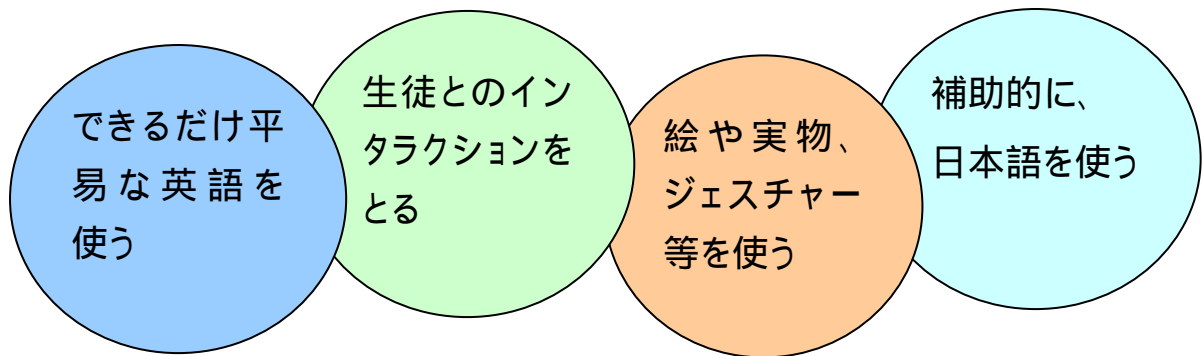
「日本語で補足する」とは、英語で言った後、それをすべて日本語に訳して言うということではありません。そうしてしまうと、生徒の耳には英語が入らなくなります。生徒の理解の状況に応じて、特に必要なことについてのみ日本語で補足しましょう。



先生は、同じことを日本語で
言ってくれるから、英語なんて
聞かなくて大丈夫さ！

また、英語で授業を進めていくとよいテンポが生まれ、英語授業のよい雰囲気ができるので、日本語で補足する場合も、それらを崩さないようにしたいものです。

なお、英語で授業を進めていく際には、生徒の不安を軽減するとともに、理解を促すことができるよう、下記のような配慮をしていくとよいでしょう。



それでは、「言語活動」の場면을例に、活動の仕方を英語でどのように説明すればよいか、具体的にみていきましょう。

次の例は、「一般動詞の疑問文」の「理解や練習のための活動」として行う、ヒューマンビンゴです。この活動の仕方を説明する際、心がけたいポイントが二つあります。一つは、生徒に配布するワークシートの一部を拡大した提示用カードを使うことです。もう一つは、活動の仕方を「説明する」というよりも、提示用カードを使いながら「示す」ようにすることです。そうすることで、言葉による説明では理解することが難しい生徒にも理解を促すことができます。

ポイント1

提示用カードを効果的に使う

ポイント2

「説明する」のではなく「示す」



大きなカードを使いながら、実際に
やり方を示してくれるから、分かりや
すいなあ。

活動名「あなたはスポーツが好き？」

T: Now, let's play Human Bingo " Do you like sports? "

S: Yes.

T: Please help me, Naomi.

活動のモデルを示すため、生徒の協力を得る

N: Sure.

T: Thank you, Naomi.

Everyone, please look at these two cards.

This is Naomi's card. That's mine.

提示用カードを黒板に貼る

< Naomi's card >

提示用カード

| like | play | have |
|--------|---|---|
| sports |  |  |
| music |  |  |
| movies |  |  |

生徒に配るカードの拡大版を、画用紙などで作っておく

T: First, I'll ask you, Naomi.

N: OK.

T: Do you like sports?

N: Yes, I do.

T: Naomi's answer is " Yes, I do. "

When your friend answers " Yes, I do. ", please circle like this.

このように言いながら、教師の提示用カードの sports を で囲む

< Teacher's card >

| like | play | have |
|--------|---|---|
| sports |  |  |
| music |  |  |
| movies |  |  |

Now, Naomi's turn. Please ask me.

N: OK. Do you have a dog?

T: No, I don't.

I answered " No, I don't. " Naomi can't circle the dog. Sorry, Naomi.

このように言いながら、手で×を示すなどして、犬の絵を で囲めないということを示す

この後、もう一度モデルを示し、生徒の理解を促す